

一般用需要高気温下P・Bともに大幅増加  
北米プロパン輸入比率92%にも  
～9月LPガス需給実績(5日集計)～

日本LPガス協会が29日にとりまとめた「LPガス需給統計」(5日集計)によると、9月のLPガス需要(元売出荷ベース)は前年同月比8.9%増の939千トンとなった。4カ月ぶりの前年比プラス。それも大幅な増加となった。9月の需要量が90万トンを超えたのは2016年の938千トン以来のこと。プロパン需要は5カ月続いたのマイナスだが、ブタンは37.1%増となった。これに対して供給は、輸入が前月高水準の反動もあって718千トンの低水準にとどまった。国内生産は前月ほどではなかったが好調で224千トン。供給計は942千トンとなった。この結果、9月末の一次基地在庫は月間3千トン増加の1,943千トンの横ばい。前年同月末比112.1%となった。うちランニング在庫は836千トンで同106.1%と高水準を続けた。8月末の在庫高がスポット輸入手当てを低調にし、極東CFR市況は大幅な低位を続けた。

1. <生産>9月の国内LPガス生産量は、石油精製分が前月比22千トン減、前年同月比16.0%増の189千トン、石油化学分が前月比1千トン減、前年同月比52.2%増の35千トンとなった。

9月の原油処理量(精製業者分)は前月比10.3%減、前年同月比3.3%減の1,411万klだった。消費税の増税を前にガソリンや灯油の仮需が見込まれたことで、前年比処理量は比較的小幅な減少にとどまった。LPガスの製油所生産量は335千トンとなった(石油統計速報ベース)。LPガスにも一部仮需が発生し、自家消費を除く「5日集計」ベースでの精製分生産量は8月のような20万トン超えの増産には至らなかったものの高水準生産となった。

石油化学での生産は、エチレン生産量が533千トンで前月比3.2%減、前年同月比12.0%増となった。前月比減の最大の要因は暦日数の減少。9月にはエチレンプラントの定修はゼロ。8月の定修は1社1プラント、前年9月は2社2プラントだった。稼働率はやや低下の93.2%にとどまった。しかし、原油高・ナフサ高を反映してLPガス原燃料用自家消費が増加したことで前月に比べて市場出荷量(生産量)は1千トン減となった。

2. <輸入>9月の輸入は718千トンで前月比367千トン、前年同月比では22.0%(203千トン)のそれぞれ大幅減少となった。超高水準の1,085千トンだった8月の反動減となった。8月の高水準輸入と3カ月続きの需要の前年割れから在庫がどんどん積み上がり、8月末一次基地在庫は1,940千トンにも達した。この結果、9月のスポット輸入は大幅に手控えられた。それでもなお極東には米国からのカーゴが入着を続け、高率関税で米国産LPガスを輸入できない中国事情と相まって、極東市場では米国産プロパンがジャブジャブ状態を続けた。極東CFR市況はCFR中国とCFR日本に分裂する事態となった。中国勢が中東産に全面シフトしているため、CFR日本市況はCFR中国よりも60～70ドルも安くなった。

9月の国別輸入状況は、北米が586千ト(うちカナダ18千ト)、アブダビ67千ト、オーストラリア57千ト、カタールが8千ト。サウジアラビアからの輸入は7月、8月に続いてゼロだった。北米からの輸入比率は81.6%。なおプロパンに限ると559千ト輸入のうち北米が514千トで91.9%となっている。サウジ離れ・米国一辺倒の輸入状況が続く。ターム契約による中東からの輸入＝船積みはもっと多いが、今や米国のプロパン輸出は年間3,300万ト超ペースとなっており、アジア・極東地域には米国カーゴがどんどん流入、勢いトレーディングによる米国玉の輸入も高比率となる。サウジからの輸入は4～9月でわずかに23千トとVLGC半杯分にとどまった。

**3. <総需要と一般用需要>**9月のLPガストータル需要は、プロパンが前年同月比0.2%減の651千ト、ブタンが同37.1%増の288千ト、合計で同8.9%増の939千トとなった。プロパンのマイナスは5か月続き。ブタンのプラスは3か月ぶり。一般用需要に限ると、プロパンが3.3%増の651千ト、ブタンが37.9%増の244千ト、合計が10.9%増の895千ト。中小販売事業者で消費税増税前の仮需がみられた。ガソリンや灯油などマス石油製品需要にもそれぞれ前年同月比4.2%増、6.4%増と仮需の影響がみられたが、いずれも前回増税時ほどではなかった。

9月の気温は、北日本が平年比1.4℃高、東日本は同1.9℃高、西日本が同1.6℃高。異常な高気温に加え、省エネ機器の普及や家庭での節エネによる需要低迷で家庭用プロパン需要は構造的に低調になっている。ただ、LPガスGHPの増加が低調な需要をある程度下支えしている。ちなみに、4～9月のLPガスGHP出荷台数は前年同期比53%増の4,642台、馬力数にして同67%増の91.6千馬力と大幅に伸びている。

**4. <輸入船直納需要>**鉄鋼用と電力用の受入れはゼロだったが、化学原料用はブタン受入れが続き44千ト(昨年9月はブタン33千ト)。直納需要計は前年同月比20.0%減となった。昨年9月の直納需要計はプロパン22千ト、ブタン33千トの55千ト。

**5. <在庫>**以上のような需給の結果、9月末の一次基地在庫は8月末比3千ト増の1,943千トとなった。昨年9月末比106.1%。うちランニング在庫は836千トで8月末比8千ト減、前年同月末比112.1%の超高水準。輸入スポット買いは低調にならざるを得ない。9月末法定備蓄量は1,107千ト。2月から民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されている。

9月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千ト、カッコ内は前年比%）。

	プロパン	ブタン	合計
月初在庫	1,351 (126.6)	589 (113.3)	1,940 (122.2)
ランニング分	566 (182.6)	278 (151.9)	844 (171.2)
法定備蓄	785	311	1,096
<供給>			
石油精製分生産	92 (103.4)	97 (131.1)	189 (116.0)
石油化学分生産	21 (262.5)	14 (93.3)	35 (152.2)
輸入	559 (70.1)	159 (129.3)	718 (78.0)
供給計	672 (75.1)	270 (127.4)	942 (85.1)
<出荷>			
一般用	651 (103.3)	244 (137.9)	895 (110.9)
鉄鋼用	0 (--)	0 (--)	0 (--)
化学原料用	0 (--)	44 (133.3)	44 (133.3)
電力用	0 (--)	0 (--)	0 (--)
輸入船直納計	0 (--)	44 (133.3)	44 (80.0)
出荷計	651 (99.8)	288 (137.1)	939 (108.9)
<在庫>			
月末在庫	1,372 (111.7)	571 (112.8)	1,943 (112.1)
ランニング分	571 (104.7)	265 (109.4)	836 (106.1)
法定備蓄	801	306	1,107

（注）在庫は一次基地在庫